



その他の取り組み

TEAS

平成24年12月19日鳥取県版環境管理システム(TEAS※)I種を取得し、環境に配慮した運営を行っています。

※TEASとは、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001に準じた鳥取県独自の規格です。

ISO/IEC17025

食品と環境分野の4種類の試験について、試験所品質システムの国際標準規格「ISO/IEC17025」に適合する試験所として認定を取得し、試験検査の品質・信頼性の確保に努めています。

鳥取県感染症情報センター

県内の感染症情報(患者情報、病原体情報)を収集・分析し、「感染症流行情報」として提供しています。

施設の特徴

建物全体が環境に配慮したエコビルディングとして、建物の一生(建設～管理運営～解体)を通して環境への負荷の低減につながるよう配慮しています。

太陽光発電システム

太陽熱給湯システム

自然素材の建築仕上げ

リサイクル材料の利用

地中熱利用空調システム

屋上緑化断熱

県産材の利用

敷地内ビオトープ



ACCESS

●公共交通機関

東京方面から 羽田空港～鳥取空港【所要時間約1時間15分】
空港連絡バス「三朝・倉吉駅方面行き」にて
倉吉駅下車【所要時間 約45分】

大阪方面から 大阪駅～倉吉駅「特急スーパーはくと」
【所要時間 約3時間】

JR倉吉駅から 路線バスでお越しの場合
「はわい温泉・石脇行き」にて
衛生環境研究所前下車【所要時間 約25分】
タクシーでお越しの場合
JR倉吉駅～当所【所要時間 約15分】

●車でお越しの場合

鳥取方面から 山陰自動車道「泊・東郷IC」を降り、西へ約7km

米子方面から 国道9号線から国道179号線に入り、
東郷湖羽合臨海公園方面へ約5km



所在地

〒682-0704 鳥取県東伯郡湯梨浜町南谷526-1 TEL.0858-35-5411 FAX.0858-35-5413
E-mail eiseikenkyu@pref.tottori.lg.jp ホームページ <https://www.pref.tottori.lg.jp/eiken/>



とつ とり けん えい せい かん きょう けん きゅう しょ 鳥取県衛生環境研究所

Tottori Prefectural Institute of Public Health and Environmental Science



はじめに

私たちは、感染症、食中毒、化学物質等による健康被害の発生に直面し、大気汚染等環境問題による環境被害のみならず健康影響までもが危惧される状況にあります。このような状況において、鳥取県衛生環境研究所では、県民の安全確保と環境への影響を把握するために必要な検査あるいは調査研究を実施しています。

また、循環型社会を構築するために必要な新たなリサイクル技術等の調査研究や湖沼の浄化・再生のための生態系に視点をおいた手法等の調査研究にも積極的に取り組んでいます。

一方、当所は衛生・環境学習の場としても位置づけられ、毎年多くの県民の方に有効に利用いただいています。



ミッション

県民の安全確保と豊かな環境確保のための調査研究拠点機能の発揮

- 危機管理対応として、県民の安全確保に資する調査研究の実施
- 環境の保全・再生と活用 に資する研究・調査の実施
- 住民・NPOの環境学習・環境活動の支援
- 試験検査の信頼性確保と精度の向上

沿革

- 昭和23年8月 地方衛生研究所設置要綱に基づき、鳥取市東町に「鳥取県衛生研究所」が設置された。
- 昭和44年3月 鳥取市松並町に新築・移転した。
- 平成14年7月 東伯郡湯梨浜町に新築・移転し、名称を「鳥取県衛生環境研究所」に改称した。
- 平成16年4月 総務課、企画調整室、保健衛生室、食品衛生室、水環境室、環境化学室、大気・地球環境室の、1課6室となる。
- 平成22年4月 総務課、企画調整室、保健衛生室、化学衛生室、水環境対策チーム、リサイクルチーム、大気・地球環境室の1課4室2チームとなる。
- 平成30年4月 総務企画担当、保健衛生室、化学衛生室、大気・地球環境室、水環境対策チームの3室1チーム1担当となる。
- 令和 7年4月 衛生室(感染症担当及び食品理化学担当)と環境室(環境研究・教育担当及び水・大気理化学担当)、総務担当の2室1担当となる。

主な施設・機器など

高度実験室



WHOの基準などで定められたレベル3の感染症微生物を物理的に封じ込め、安全に実験を行うための施設です。

液体クロマトグラフ質量分析装置(LC-MS)



野菜や果物などの農産物に残った農薬成分や鶏肉などの食肉に含まれる動物用医薬品の成分を分析しています。

その他、電子顕微鏡、ガスクロマトグラフ質量分析装置、高周波誘導結合プラズマ質量分析装置、蛍光X線分析装置などの様々な機器を使って、感染症・食品・医薬品・水質・大気・廃棄物などの検査や調査研究を行っています。

組織と主な業務内容

衛生室

●感染症担当

感染症や食中毒の原因となる細菌やウイルス等の検査を行っています。ゲノム解析や下水道の水に含まれる新型コロナウイルスの動向調査などの調査研究を行っています。また、毎週県内の感染症の発生情報を発信しています。

感染症 食中毒 ゲノム解析



細菌・ウイルス検査

●食品理化学担当

食品中の農薬、動物用医薬品、添加物、医薬品・危険ドラッグ成分などの検査を行っています。また、化学物質が原因と疑われる食中毒などが発生した際、原因究明のための緊急検査を行っています。あわせて、これらの検査を正確に行うために、検査結果の品質管理を実施しています。

残留農薬 添加物 医薬品・危険ドラッグ



食肉中の残留動物用医薬品検査

環境室

●環境研究・教育担当

湖沼の水質浄化や生態系・生物多様性の保全、自然再生などに関する研究、地下水や湧水の保全や気候変動に関する研究、廃棄物の適正処理やリサイクルに関する研究などを行っています。また、地域住民の活動支援や環境教育なども行っています。

水環境 気候変動 廃棄物資源循環



動物プランクトンの採取(東郷池)

●水・大気理化学担当

公共用水域や事業場排水などの水質検査を行っています。大気中の有害物質、酸性雨、航空機の騒音の測定や県外から流れてくる大気汚染物質の調査研究を行っています。

水質汚濁 PM2.5 航空機騒音



有害大気汚染物質(VOC)の測定

●総務担当

予算経理、物品購入や建物・設備の維持管理などの管理運営を行っています。